

会 議 録

会議の名称	第四回上尾市産業振興ビジョン策定委員会
開催日時	平成25年12月3日(火) 午後3時00分～午後4時50分
開催場所	プラザ22第二会議室
議長(委員長)氏名	河藤 佳彦
出席者(委員)氏名	山崎好信、大木保司、青木幹二、黒澤 久、野崎 実、 佐久間隆成、今村至孝、近藤博昭、勝本光久、小板橋通泰、 小谷野茂、吉田修三、和田正憲(14名)
欠席者(委員)氏名	小川 均、神田隆雄、小川厚則 (3名)
事務局	商工課：小幡、大上、東海林 農政課：佐藤、小宮山
会議次第	1. 開会 2. 委員長挨拶 3. 議事 (1) 検討経過の報告について(第三回策定委員会以降の検討経過) (2) ビジョン(案)の検討について (3) 今後のスケジュールについて (4) その他 4. その他 5. 閉会
会議資料	資料1 検討経過報告 資料2 ビジョン(案)のポイント 資料3 ビジョン(案)※冊子

1 開会

事務局：○本会議の開会を宣言。

○資料の確認。

○本日は委員14名に出席いただいている。過半数に達しているので、策定委員会設置要綱の第6条2項に基づき本日の会議が成立することを報告。

○新任委員を紹介。（前回策定委員会を欠席であったため）

・勝本光久委員（関東経済産業局総務企画部企画課長）

2 委員長挨拶

事務局：議事に先立ち、委員長からご挨拶をお願いしたい。

委員長：本委員会、作業部会の取り組み及び事務局の熱心なサポートにより、産業振興ビジョンの全体像が見えてきた。本市が持つ産業の多様性や大都市との近接性などの優位性を生かし、総合力を引き出していくことが重要であり、それを実践していける内容に仕上がっている。本日はこのビジョン（案）をもとに審議していただき、その後パブリックコメントにかけることになっている。内容をさらに充実させたいので、皆様のご協力をお願いしたい。

3 議事

（1）検討経過の報告について（第三回策定委員会以降の検討経過）

事務局：策定委員会設置要綱の第6条1項に基づき、議事の進行を委員長をお願いしたい。

委員長：議題（1）検討経過について、事務局から報告願いたい。

事務局：資料1にもとづき、第三回策定委員会以降の動きを説明。

委員長：質問があればいただきたい。特になければ議題（2）に進みたい。

（2）ビジョン（案）の検討について

事務局：資料2及び資料3にもとづき説明。

○提示したビジョン（案）は叩き台であるので、ぜひ忌憚のないご意見をいただきたい。まず、これまでの検討の経過を振り返りたい。

◆作業部会では、策定委員や各種団体へのヒアリングを実施してきた。また、農業者、工業者、商業者、消費者を対象としてアンケート調査を実施した。

◆平成24年度の主題は、産業の現状と課題の把握で、調査の結果は本年4月に報告書として皆様に配布した。

◆市議会も産業振興ビジョンに高い関心を持っており、文教経済常任委員会に対してこれまでに5回ほど説明を行った。

○ビジョン（案）の概要を報告。（資料2、3に基づいて説明）

◆本ビジョンの特徴

◆【序章】

- ◆【第一章】産業振興の意義と必要性
- ◆【第二章】産業構造の現状と課題
- ◆【第三章】将来像と基本方針
- ◆【第四章】ビジョンの実現に向けて
- ◆【第五章】施策の体系と事業展開
- ◆【第六章】スタートアップ事業
- ◆【むすびに】

○今後、事務局、作業部会ともどもビジョン（案）の内容を精査して、さらに修正していきたい。1月にはパブリックコメントに進む予定である。

委員長：それでは、ビジョン（案）に関するご意見を自由に述べていただきたい。本日の議論は、論点を4つに整理して進めていきたい。

◆全体の構成について

表現は見やすいか、内容は理解しやすいか、産業振興ビジョンの位置づけ、想定する期間等は適切であるか。

◆役割の設定について

産業振興における関係各社の役割の設定の仕方や役割の中身は適切であるか。

◆将来像について

将来像案については、昨年度の策定委員会でも議論されたが、当時は全体像が見えていない段階であったため、結論を出さずに継続議論となった経緯がある。この会議では、結論を1つに絞り込むのではなく、会議における議論も含めて市長に提案することとなる。

◆具体的施策について

このビジョン（案）はアクションプログラム的な性格をもたせている。そのことについてご意見をいただきたい。

この進め方でよろしいだろうか。

委員：はい。

委員長：それでは、まず、全体の構成について自由にご意見を述べていただきたい。

委員：総体的にみて、よくできている。これまでの策定委員会でも、施策の実施主体を明確にする必要性を述べてきたが、このビジョン（案）では、主体がはっきりと提示されていてわかりやすい。これくらい細かい内容になると、社会の情勢と合わなくなることも予測されるが、ビジョン（案）の中で、「社会経済環境等の変化により、本ビジョンに示した将来像や施策の進捗状況等が著しく変更となるおそれが生じた場合には、新たなビジョンを策定するものとします」とフォローする文章も入っているので、よいと思われる。

委員：P.5-2、P.5-3、P.5-4の「重点事業」は、唐突に出てくる印象を受ける。「(仮)産業振興会議」や「(仮)中小企業サポートセンター」の設置は、はたして事業といえるか。また、P.5-4の「上尾道路沿道の適切な土地利用の検討」は、

具体的施策にどう反映させるのか。逆に、具体的施策に細かくスケジュールを設定するのであれば、この中でどこに力を入れるのかを明確にした方が良い。

委員長：P.5-2「(仮)産業振興会議の設置」、P.5-3「(仮)中小企業サポートセンターの設置」などは、ビジョンの実現に向けて、組織的な体制を整備することと理解していたのだが、皆様はいかがであろうか。

委員：この重点事業がないと、逆にまとまらないであろうと感じる。この策定委員会が終了した後でも、このような場が「(仮)産業振興会議」として必要であるということを明記しているので、私は必要であると考えます。

委員：今年の2月に視察に行った八尾市では、中小企業サポートセンターを中心にネットワークが組成されていたのだが、これを参考にしたものと思われる。少し内容が外れるかもしれないが、先週の土曜日、信州の上田に出かけた。そこには、あげお産業祭に来てくれた味噌づくりの会社があるのだが、その社長は地元の様々なネットワークとつながっている。味噌を納めているラーメン屋とのネットワーク、隣の蕎麦屋が関連するネットワークとつながり、さらに原料として地元の大豆を厳選していることから、農協ともつながりがある。また、上田では地元の米を原料に酒を造っていて、それを東京から買いに来る人もいるらしい。そういったネットワークが充実していることに感銘を受けた。

委員長：様々なネットワークというものは、とても大事である。

委員：観光業、農業、商業、工業、飲食業のネットワークの厚みを感じた。

委員長：「(仮)産業振興会議」から交流の場へと、地域のネットワークを感じる話であった。「(仮)産業振興会議」や「(仮)中小企業サポートセンター」の必要性があることは確かだが、それをどのように位置づけるかということは、重要な課題である。

事務局：計画を作るだけではなく、施策を実行していくことが重要であると考えている。中でも、特に取り組みの必要性がある事業を目立たせ、メリハリをつけたものにしたと考え、重点事業として位置づけたものである。

委員長：ご了承いただけたであろうか。

委員：はい。

委員：人口増加や企業誘致、住宅地をどこにつくるのか、交通アクセスの利便性などをどうするかということについての将来都市像が前提にあって、地域の農商工観光の振興に反映されるものと考えます。外部から来る人にどう対応するか、企業をどのように誘致するか、土地買収なども含めて、将来は他の市よりも抜きんぞうという目標が必要である。

委員長：さきほどのご意見は、ビジョンの中でどこまで具体的に踏み込むかということについて、不十分ではないだろうかという趣旨と捉えられる。事務局のご意見はいかがであろうか。

事務局：人口増加や企業誘致に関する施策については、P.5-10の「企業誘致のための都市基盤の整備」等の施策を盛り込んでいる。企業誘致については、積極的に

取り込んで、成果に結びついている自治体の例などもあり、産業振興には有効な施策であると認識しているが、実際には、上尾市には企業を誘致するのに最適なまとまった土地がなく、近隣自治体などと比較して、面積や土地の価格などの条件が不利であるなど、課題も多い。しかし、上尾道路開通を契機として、沿道への企業誘致に向けた検討を進めていきたいと考えている。一方、上尾市の工場は準工業地域に立地していることが多く、工場移転があるとその跡地が住宅地になってしまうこともある。その結果、新たな住工混在の問題が発生する可能性もある。こうしたことを防ぐために、工場が移転する可能性が出てきた場合には、他の工場としての土地利用を促すなどの企業誘致施策についても、検討の余地があると思われる。

委員長：先ほどのご意見は、ビジョンと具体的な事業の切り分けをどうするかという意味であると思われる。ビジョンは10年という長い期間の中で、個別の施策を記載することが難しい面もある。企業誘致については、上尾道路沿道の土地利用の中で考えていくという項目をあげ、実際にはそれを実現するために、毎年の施策を立案し、事業のための予算を要求するのが行政としての具体的な進め方だと思われる。

委員：上尾市は住宅用地としては良い場所であると思う。さらに住宅を増やす政策やバスの利便性を向上させる方策なども考えた方が良いのではないかと。

委員長：ここでは、産業振興という視点から、施策について考えたい。

委員：本ビジョンは、総合計画の産業振興に関わる部分について、さらに踏み込んだ内容とするものと認識している。したがって、前段として総合計画との整合性が必要であれば、「総合計画の〇〇ページを参照」と記述することも良いのではないかと。

委員長：今までのご意見を参考として、ビジョン（案）のP.2の「産業振興ビジョンの位置づけ」において、上尾市総合計画との関係を記載しているところがあるが、ここを補足して、上尾市全体の施策との関係をもう少し詳しく記述してはいかがだろうか。

委員：それでよいと思われる。上尾市全体の「まちづくり」の姿勢や方向性と関連させなければ、このビジョンの施策を実現することはできないと思う。

委員長：次に、役割の設定についてご意見があれば述べていただきたい。

委員：ビジョン（案）のP.4-2には「国や県などの産業支援機関」という項目があるが、産業支援機関という場合は、中小企業基盤整備機構や日本貿易振興機構、埼玉県産業振興公社などをイメージすると思うので、ここでの項目としては「国や県・産業支援機関」とした方がいい。また、文章中には「連携を積極的に進め、国等の中小企業支援策の活用促進を図る」と入れてほしい。国の支援策をぜひ積極的に利用していただきたい。

委員：「交流と連携」を前面に出しているのであれば、5つの実施主体（行政、産業関連団体、事業者、市民、国や県・産業支援機関）の相関図を示した方がいい。

その方がパブリックコメントをかけた時に、市民にもわかりやすいと思われる。
また、全体的に文章表現が硬すぎる印象がある。

委員長：視覚的にそれぞれの役割と関連がわかった方がいいというご意見をいただいた。
たとえば、概念図などをわかりやすく記載したらいかがであろうか。相関関係の示し方として、いいアイデアがあればいただきたい。

委員：(仮) 中小企業サポートセンターが核になるのではないか。そこから様々な主体につながっていく。

委員長：(仮) 中小企業サポートセンターは重要な役割を持つことになる。そこを含めた形で各主体が連携していくことを示したらよいと思われる。

委員：事業によって、結びつきが出る主体と出ない主体があると思う。あまりにもつながりが複雑すぎるとわかりにくくなるのでは。

委員長：基本的な相互関係を示すだけでよい。個別事業におけるつながりまで図示化しようとするとならば複雑になってしまう。

事務局：検討したい。

委員長：あくまでも事業者が主体的な役割を持ち、ほかの機関等は側面からサポートするという位置づけがわかるようにするべき。

事務局：さきほど、表現が固すぎるといふ表現が硬いといふご指摘をいただいたが、その通りであると認識している。行政の役割については強い表現で記述できるのだが、市民や他の機関の役割となると、強制と思われるような表現を避けるあまり、つい硬い表現になってしまった。特に、市民は産業振興の重要な役割を担うということを理解していただきたいので、わかりやすい表現を心がけたいと思う。

委員：P.5-2 の図では、上尾市に対して(仮) 産業振興会議が提言を行うことになっているが、(仮) 産業振興会議を構成する「行政」の中に上尾市は含まれないのだろうか。「行政」という言葉の意味は、上尾市なのか国・県も入っているのか、細かい点に矛盾が生じないように、わかりやすく表現してほしい。

委員長：概念図は大事であるが、混乱をきたさないよう、言葉の使い方には注意してほしい。おそらく、P.5-2 の「行政」は県や関東経済産業局ということであろう。しかし、(仮) 産業振興会議と上尾市の相関関係については、明確にしておいてほしい。

委員：「(仮) 産業振興会議」で、総合的な戦略をつくるのはわかるが、「各年度でテーマを設定して」とは誰が設定するのか。「(仮) 産業振興会議」が設定するのか、上尾市なのか。

委員長：上尾市の産業振興会議は1998年に発足以来、具体的なテーマを決めて取り組んでいる。そのことを参考にしているのかもしれないが、関係性を明確に位置づけしておくことは必要である。「(仮) 産業振興会議」という主体的な組織があるのだから、個別のテーマについては「(仮) 産業振興会議」が設定することとなるであろう。その中で行政として意見を出すこともあるかもしれないが、

他のメンバーからの提案もあると考えられる。しかし、会議の自立性をどのように位置づけるか明確化することは必要である。

委員：相関図を見ると、市議会の位置づけはどうか。予算が動くときには必ず議会の承認が必要になる。「行政」と「上尾市」と「議会」の位置づけを整理しないとわかりづらい。

委員長：事務局の意見はいかがでしょうか。

事務局：大きく言えば、議決機関と執行機関があって二元代表制という枠組みがあり、「(仮)産業振興会議」は執行機関の側に属すると考えられる。産業振興ビジョンに対する市議会の関心は高く、策定状況について、既に5回説明を行っている。また、より良い産業振興ビジョン策定のために、市議会から提言を出すという話も聞いている。市議会からのご意見があれば参考にさせていただくが、産業振興ビジョンの策定はあくまでも執行機関におけることであり、議会は別機関であると認識している。

委員長：先ほどのご意見で指摘されたように、実際には議会の承認を得なければ予算を動かすことができない。ただし、あくまでも「(仮)産業振興会議」は執行機関に提言を行い、それを踏まえて予算要求をするなど、議会へ対応すべき時は行政がすることになると思われる。

事務局：P.5-2の図は、組織的な会議を構成するという内容に留めているが、「(仮)産業振興会議」の成果までを含めると理解してよろしいだろうか。

委員：施策を実現するための予算は議会の承認が必要となる。議会は市民の代表ということから、最終的な目的は「市民にとってプラスになることである」という趣旨の表現を入れた方がいい。

委員長：それでは、次に、将来像についての議論に移りたい。今年度から新しく委員に就任した人もいますので、ここに提示された5案を初めて目にする人もいます。昨年度に将来像の案を提案された時は、ビジョンの全体像がまだ見えていなかったため、継続審議事項になったという経緯がある。

事務局：今年2月の策定委員会で、ここに提示した1案から4案までと同じものを提案したが、その時は、ビジョンの方向性がもう少し固まってから将来像の検討をするということになった。作業部会では、前回提案した将来像案と具体策を合わせても違和感がないという結論だったので、1案から4案を再提案した。また、作業部会も今年度から新しいメンバーが加わったので、新たな視点から5案目を提案した。

委員長：ここでは将来像について票決を取るわけではなく、ご意見をいただきたい。いただいたご意見を含めて市長へ提言するということになる。一部表現を変えるような提言もよいだろうか。

事務局：はい。

委員長：以上のことを前提として、ご意見をいただきたい。

委員：会議の前に、家族も含めて周囲の人に「上尾にはどのようなイメージがある

か？」と質問してみたが、誰からも明確な回答が得られなかった。そこで、情報の発信が重要かと思い、2案の「交流と連携でつくる、多彩な産業がキラリと光るまち あげお」を推したい。

事務局：「あげお」の文字をひらがなにするかどうかについての議論は特になかった。「あげお」という表現を入れるかどうかという議論も特になかったが、産業振興ビジョンの中では、「あげお」という言葉の有無や表記について、あまりこだわらなくても良いと感じている。

委員：将来像は、目指すべきまちの姿を表すものとなる。目指すべき姿が「キラリと光るまち」なのか、「産業元気都市」なのか、そこにスポットを当てて考えた方がいいと思う。上尾は住宅都市という現実もあるので、産業都市という言葉聞いた時に、調和のあるまちの姿というのはどういうものなのか？という疑問が出るだろうと考えると、総合系のキャッチフレーズに落ち着くと思う。しかしながら、目指すべき姿なので、現実にある姿が目指す姿というものでなくても良いかもしれない。

委員長：ここで最終決定するわけではないが、これは削除の方がいいという意見があれば出していただきたい。将来像に関する議論はそろそろ収束させなければいけない。したがって、この案については考え直した方がいいという意見があれば、つきつめて議論したい。この案の中から選択してもらおうということでもよろしいだろうか。

委員：交流、連携、躍動など難しい漢字が多すぎる。上尾市の総合計画の将来都市像では、使っている漢字は「笑顔」だけである。逆にインパクトを出すならば、漢字で固めるという方法もある。

委員長：この段階の議論なので、できる限り結論に近づきたい。ここに提示してある案がよくないのであれば、ここをこうした方がいいなどの代替案を出していただきたい。

委員：「交流」と「連携」を両方入れるのは欲張りすぎる。どちらかにした方がいい。また、「人が集まり、つながる」という言葉も長すぎるので、「つながる」という言葉を生かした方がいい。

委員長：「交流」と「連携」であれば、どちらを使った方がよいであろうか。

委員：横文字で何かいい言葉はないだろうか。

委員長：議論の進め方を確認しておきたいが、ここでもう一度検討できるということであれば、もっと時間をかけて検討してもよいのだが、将来像の案については本日初めて見たというわけではない。また、年度内にビジョンを策定したいという市の方針をふまえると、そろそろ見極めていかなければならない。

委員：それでは、これまでの意見は自由意見ということで受け止めていただきたい。

委員：P.3-2の基本方針をみると、1番目の「既存の産業のバージョンアップ」はこれまでの産業の蓄積を活かすということ、2番目の「新たな交流・連携の推進」と3番目の「ブランド化の推進」は新しい産業をつくっていくことにつな

がる。また、P.2-14に産業全般に関する課題として、「自立した地域経済の構築」があげられている。交流と連携を進めるのであれば、まずは各自が自立していることが重要であると思われる。今回の産業振興ビジョンで重要なことは、新しい“業際”（※異なる事業分野にまたがること：「大辞林」より）をつくるということだと思う。そこで、「自立した業際都市 あげお」という将来像はどうかと考えた。

委員長：新しい選択肢としての提案をいただいた。

委員：本ビジョンは総合計画の基本方向「たくましい都市活力づくり」からきているので、「キラリと光る」などの言葉では、強さを表せないと思った。強さを出したいので、新たな案を考えたのだが、そこに「交流と連携」を付け加えたらいかがであろうか。

委員長：将来像案に新たな選択肢を加えることは可能であろうか。

事務局：可能である。

委員：言葉だけが独り歩きしてもいけないので、やはり「あげお」という言葉は入れておいた方がいい。

委員：全体的に言葉が長いと思われるので、「交流と連携」という言葉は削除しても良いのでは。ビジョン（案）の中で「交流と連携」を表現すればいい。「あげお」という言葉は必要であると思う。

委員：むしろ、農業、商業、工業、観光が互いにつながり、連携していくことで強固な産業をつくりあげていく、というイメージが必要である。産業間で結びつくことによって相乗効果が上がるということや、交流と連携でつながっていくということが重要なので、盛り込んでも良いのでは。

委員長：市長に提案する時には、策定委員会で出された意見を整理して提出し、それも踏まえて最終的に市長に判断していただくということによろしいだろうか。また、新たな案として「交流と連携でつくる自立した業際都市 あげお」という案を加えるということによろしいだろうか。何かご意見あればいただきたい。

委員：3案の「ワンランク上のあげおをめざして～交流と連携で、地域経済の活性化～」は削除してもいいのではないか。

委員長：まず、「交流と連携でつくる自立した業際都市 あげお」を新たな選択肢に加えるということによいだろうか。

委員：はい。

委員長：次に、3案の「ワンランク上のあげおをめざして～交流と連携で、地域経済の活性化～」を削除するということについてはいかがか。

委員：ここでは決められないので、並列して提案すればよいのではないだろうか。

委員長：それでは新たな案を加え、さらに策定委員会の意見も添えて、市長に提案するということがよいだろうか。

委員：はい。

委員長：次に、具体的施策についての検討に移りたい。

委員：事業のスケジュールの、短期は3年以内、中長期は3年ないし5年という期間だと思うが、産業振興ビジョンは今後10年間で上尾市がめざすべき姿を実現していくとしていながら、出ている施策は3年ないし5年で終わってしまうものが多い。そこで、当初の3年間に取り組んでいくことをあげ、それ以降に取り組むことは「(仮)産業振興会議」において検討していく、ということを経験した方がよいのでは。

委員長：「(仮)産業振興会議」の議論をふまえた施策に取り組むというご意見をいただいた。

委員：本当は、10年後の姿が出ているのだから、その実現に向けた工程表が明らかにされることが一番望ましい。

事務局：事業スケジュールの期間としては、「スタートアップ」は平成26年度から取り組むことを掲げ、短期は5年以内、中長期はそれ以上という期間を想定している。土地利用の検討のように、10年以上かかる可能性がある事業もあれば、想定よりも短期間にできる事業などが混在している状態である。それぞれの期間については、どこかに注釈を入れてわかりやすく表記したい。

委員：ここに列挙されている施策を実施すれば、上尾市の産業はあるべき姿になるのだろうか。おそらく、施策を評価すれば、もっと実施すべき施策があるということになると思う。足りない部分については追加していく旨を記述しておく必要があるのではないか。

事務局：そこはわかりやすく表現したい。

委員長：この後、いただいたご意見をもとにビジョン(案)を修正するが、パブリックコメントの前にもう一度各委員に提示する段階があるかどうか確認したい。

事務局：パブリックコメントは、主に市ホームページなどを通しての公開になる予定である。その前に、委員のみなさまには修正案を提示したい。

委員長：それでは、修正したビジョン(案)を各委員に報告した後に、パブリックコメントにかけるという段階を踏むということをお願いしたい。

(3) 今後のスケジュールについて

委員長：今後のスケジュールについて、事務局からご説明いただきたい。

事務局：本日の検討結果をもとにビジョン(案)を修正し、委員の皆様にご報告したい。修正したビジョン(案)についてご意見がある場合には、事務局にご連絡いただきたい。その後、パブリックコメントを平成26年1月6日～1月27日まで行う予定である。さらにその後の作業部会では、本日の議論の結果、修正された事項やパブリックコメント結果を報告、最終的な検討を行う。次回の策定委員会は2月中旬開催予定で、産業振興ビジョンはこの時点でほぼ完成となる。次回の策定委員会の日程の詳細は、調整してからお知らせしたい。

(4) その他

委員長：ほかにご意見があればいただきたい。特になければ議事を終了し、進行を事務局にお返しする。

4 その他

事務局：以上をもって閉会と致したい。ありがとうございました。

5 閉会